

第 6 次横浜市男女共同参画行動計画策定部会（第 2 回） 会議録（要旨）	
日 時	令和 7 年 2 月 6 日（木）14：00～16：00
開催場所	市庁舎 18 階なみき 6・7・8
出席者 （五十音順）	小ヶ谷委員、戒能委員、菊池委員、小泉委員、野口委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者なし）
議題等	<u>議 事</u> 1 第 6 次行動計画の方向性 2 答申の骨子案 3 その他
決定事項	答申時期の後ろ倒しについて了承。
議事等 要旨	1 第 6 次行動計画の方向性 各施策の活動指標及び目標値の考え方について、各委員の意見を踏まえ、事務局にて検討を進める（主な発言は以下のとおり）。 2 答申の骨子案 将来を見据えた課題感を記載することについて検討する（主な発言は以下のとおり）。 3 その他 国の次期基本計画素案の内容を反映させるために、横浜市の計画の答申も後ろ倒しとする。事務局にてスケジュールを調整する。
議事 1 第 6 次行動計画の方向性 政策 1	
事務局	事務局より説明。＜資料 1＞＜参考資料 3＞
戒能委員	施策 2 ハラスメント対策を実施している企業の割合については法改正により全ての企業に義務化されたが、法制度は整っているけれども実際の意識は変わらないのではないか。ハラスメント対策や研修の実施等の指標がある方が、企業も努力できるのではないか。
議事 1 第 6 次行動計画の方向性 政策 2	
事務局	事務局より説明。＜資料 1＞＜参考資料 3＞
戒能委員	施策 4 DV 防止とあらゆる暴力の根絶」について、顕在化していない実態を把握できる指標があるとよいのではないかと。
菊池委員	代替指標案として、 ①精神的暴力や性的暴力が DV だと認知している割合 ②こどもの面前での DV が子供虐待にあたることを知っているかどうかを提案する。
戒能委員	警察庁の統計によれば面前 DV が最も多い。

小泉委員	DV被害が表出していないだけの可能性もあり、相談件数が少ないことが必ずしもよいこととは言えないため、取組の評価としてこれを指標とするかどうかは難しい。相談件数と併せて窓口の認知度や心理的な窓口の利用しやすさを指標としてはどうか。
事務局	菊池委員ご提案の①は成果指標とする予定である。ご提案の②及び小泉委員からご提案いただいた「窓口の利用しやすさ」については、これまで調査をしていないため、現状値を把握できておらず、すぐに指標とすることは難しいが、今後どう把握するか検討したい。
戒能委員	施策5にも共通するが、困難な問題を抱える方は困り事があっても窓口を知らないし、知っていても相談に行かない。後者の理由は何かを明らかにし、その要因を取り除くことが重要である。
事務局	今年度の市民意識調査で「あなたが配偶者やパートナーからDVやデートDVを受けた場合、誰かに相談しようと思いますか はい・いいえ」という設問がある。速報値だが、はい 70%以上、いいえ 20%程度である。また、「どこにも相談しないのはなぜですか」（複数回答可）に対しては、「どこに相談していいのかわからない」が3割程度で最も多く、次いで、「相談しても無駄だと思う」が同程度、「相談するほどのことではない」25%となっている。
野口委員	専門用語については説明を記載した方がよいのではないか。例えば、「リスクリング」「アウトリーチ」「SOGI（ソジ）」等。
戒能委員	支援をする側（相談員、民間事業者、ボランティア等）への支援についても記載をしてはどうか。
小泉委員	施策5だけ抽象度が高い印象を持った。記載方法を検討した方がよいのではないか。
戒能委員	施策5の根拠としている困難女性支援法は、女性が色々な問題を抱えながら生きていることを一つの法律で示すことができるよう立法された。また、問題の背景は複合的なため、取組は各所の連携が不可欠である。
議事1 第6次行動計画の方向性 政策3	
事務局	事務局より説明。＜資料1＞＜参考資料3＞
小泉委員	施策9「ライフステージに応じた健康支援」に2つの指標を追加した理由を教えてください。
事務局	特定健診は働く世代を対象にした健診である。5次計画では女性のみ健康支援としていたものを6次計画からは男性も含むことを表現するため、男性の健康課題を念頭に追加した。 75歳の市健康診査受診率は「生涯にわたって」を表現するため追加した。
戒能委員	他計画でも取り上げられている指標なのであれば男女共同参画行動計画で取り上げなくてもよいのではないか。
菊池委員	男女ともに健康寿命を延ばすことについては男女共同白書の中にも記載がある。他計画との棲み分けをしてもよいのではないか。
事務局	40歳を超えると女性の乳がんが増加するのと同様に、男性の肥満と脂質異常

	値も高くなることが示されており、このことへの取組として追加したのが大きな理由である。重要なのは、「健康寿命（健康で生き生きと過ごすこと）」をいかに伸ばしていくかであり、その意味では4,50代の取り組みが重要で、特に男性において重要となる。そうした課題感もあり男女含めた各ライフステージにおける健康支援をする目的で新たな指標を追加した。
小ヶ谷会長	現状と課題とつなげて読むと指標の意味が分かる。
小泉委員	意図があるのであれば削らなくてもよいかもしれない。
議事2 答申の骨子案	
事務局	事務局より説明。＜参考資料4＞
事務局	事務局より説明。＜資料2＞＜参考資料2＞ また、小ヶ谷部会長より、外国籍女性の貧困やDVの問題について事前にご意見をいただいていることについて紹介。 ＜ご意見の概要＞ 改正DV法の際に「国籍にかかわらず」という文言が入り、現場の支援に大きな変化が出た。横浜市の男女共同参画において、「多様な背景を持つ男女」という時に、やはり国籍やルーツに言及する必要があると考える。また、近年では地域防災における外国人住民の参加も重要な課題であり、固有の課題があると考えられる。「国際性」やSDGsの視点を重視するのであれば、計画全体を通して外国籍住民も視野に入れていくことを組み入れていただきたい。
戒能委員	現状における課題は様々であり、また課題は変化していくこともある。横浜市として、国の政策等も踏まえて、どの課題に着目して取り組んでいくかという説明を記載してはどうか。
小泉委員	1 男女共同参画を取り巻く状況 について、読み取りにくいグラフがあるため色や見せ方を工夫した方がよいのではないか。
議事3 その他	
事務局	国の第6次計画のとりまとめ及び答申は、令和7年夏ごろを予定していることがわかった。
小ヶ谷会長	国の次期基本計画素案の内容を反映させるために、横浜市の計画の答申も後ろ倒しとすることでいかがか。
一同	異議なし
事務局	委員の皆様のご意見を踏まえ、答申の後ろ倒しについて調整させていただく。今後のスケジュールについては調整でき次第ご連絡させていただく。